

# 経験の言語化に焦点を当てた意見文作成能力の育成

## — 生成 AI 時代における推敲指導の開発と検証を通して —

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（国語）

井川 ひかる

本研究は、自らの経験を基盤とした説得力のある意見文作成能力の育成を目指し、実践可能かつ効果の見込める授業を開発し、検証することを目的とする。

生成 AI の普及により、人間が書くことの意義を見失いつつある実態を踏まえ、実践 1 では AI 生成文を評価する活動を行った。結果、AI 生成文と自身の意見との「ズレ」を感じ、自身の経験に基づいた文章に修正していく必要性を認識したことで、自ら書くことの意義を再発見することができた。だが、AI 生成文の修正の必要性を感じても、自力での推敲は苦戦する様子が見られた。

そこで、実践 2 では、意見文の 3 要素を「意見・経験・つなぐ文章」として定義し、一貫性を確保するための推敲指導を行った。結果、推敲のポイントと方法を理解し、意見文としての一貫性を意識した推敲ができるようになった。一方で、経験で得られた学びを言語化し、意見へ結びつけるためのつなぐ文章の作成や修正の判断には難しさを感じていた。

そのため実践 3 では、執筆前の思考整理を行い、定型表現や修正の具体的なチェック項目の明示を行った。結果、自らの言葉で経験を意味付けることができるようになり、自身の経験を根拠として機能させた一貫性のある意見文を完成させることができた。また、自己推敲能力が向上し、書くことへの自信と意欲が培われた。